

入選 高学年の部

ぼくのお父さん

ぼくのお父さんは、お寺の仕事とほ育園の仕事をしています。お父さんは毎日毎日夜おそくまで仕事をしています。休みはないです。家族で出かけることができなくて、お母さんとぼくたちで出かけることが多いです。そんなとき、「いつしよに、行けたらいいのになあ」、

「さみしいなあ」って思います。お父さんは、なかなか出かけられないけど、ぼくたちに本を読んでもくれたり、ぼくたちの話をよく聞いてくれたり、お母さんがおこつたら、ぼくたちを守ってくれます。

今までの中で一番うれしかったことは、花をいけることを教えてもらったことです。かたづけのし方も教えてもらいました。ぼくは、はじめて花いけをしました。お父さんがいけた花は、すごくきれいでした。お父さんが、「おれのあとには、おまえにたのむ。」とぼくに言いました。それを聞いて、ぼくは、すごくうれしかったです。そして花いけが終わってから、かざつてある花をみながら、お父さんが、「すごくきれいだな。」と、ぼく

鹿児島県

霧島市立溝辺小学校四年

加来 眞

に言ったので、「うん、すごくきれいだね。」と、ぼくも言いました。ぼくも、お父さんみたいにじょうずに花いけをしたいと思いました。

お父さんは、時どき料理も作ります。一番おいしいのが、野菜のためです。お母さんが料理を作れない時に作ってくれます。みんなお父さんの野菜のためが大好きです。お父さんは、いろいろな人にへんしんします。お寺のじゅうしよく、ほ育園の園長先生、ぼくたちのお父さんにへんしんします、そんなお父さんはかっこいいです。

ぼくたちとけんかするときもあるし、お母さんとけんかしたりするけど、そんなお父さんが、ぼくは大好きです。ぼくは、お父さんみたいなお父さんになりたいです。

お父さんは、人の話をよく聞いてくれます。ぼくは、お父さんはすごいなあと思います。ぼくも、お父さんみたいに、人の話を聞ける人になりたいです。

お父さん、いつも、ありがとう。テレビのへやでねないで、ふとんにちゃんとねてね。